

田んぼや畑でもみ殻を活用

J Aの乾燥調製施設では、毎年多くのもみ殻が出ており、**無料**※でお譲りしています。



もみ殻には活用方法がたくさんありますので、ぜひ使ってみてください。
※運搬費等は別途発生する場合があります。

●畑の地表の保温効果

寒い時期に畑の地表を覆い保温に役立てます。藁(わら)も良く使われますね。

●畑の地表の保湿効果

夏の間など、種まきの後に地表が乾燥しないように使います。

●硬い土壌に混ぜ込んで通気性アップ!

もみ殻の主な成分はケイ酸です。窒素、リン酸、カリといった肥料成分は微量しか含まませんが、もみ殻を混ぜ込むことで空気や水の通り道ができ、土が柔らかくなり根張りをよくします。根腐れ等を予防する効果も期待できます。

【お問い合わせ・引渡場所】

J Aひがしみの

各カントリーエレベーター・ライスセンター

ライスセンターが稼働していない12月から翌年8月は、最寄りのアグリセンターへご連絡下さい。

堆肥づくりのすすめ

【落ち葉堆肥】

ケヤキ、コナラ、クヌギなどの広葉樹の落ち葉に米ぬか、油かす、骨粉などをサンドイッチ状に積み重ね、水をたっぷりまいて踏み固めます。これを繰り返して1mくらいに積み上げ、1カ月に1回程度切り返し、落ち葉がボロボロに崩れてきたら完成(1年ほどが目安)です。

ベニヤ板などで囲いを作り堆積場を作るとよいでしょう。

【生ごみ堆肥】

有機物である生ごみに、米ぬかや油かすを加え発酵させて作ります。

釣り鐘型のプラスチック容器(コンポスト)などの名称で販売)などを土中20cm程度の深さまで埋めます。水を切った生ごみと、同量の乾いた土や落ち葉を重ねて入れていきます。米ぬかをまぶすと悪臭や虫の発生を抑え、ごみの分解を早めます。これを満杯になるまで繰り返し、1カ月以上放置します。容器を2個交互に使えば、年間を通して生ごみの処理と堆肥作りがしやすくなります。

なお、生ごみ堆肥は窒素を5%ほど含む肥料効果が高いため、生ごみ堆肥だけで栽培するときは、1平方メートルあたり3〜4kgを施します。

なす太郎のポイント指南

今月の管理ポイント

10月に入ってもまだまだ、なすは採れます。最後までしっかりと栽培管理し収穫を楽しみましょう!

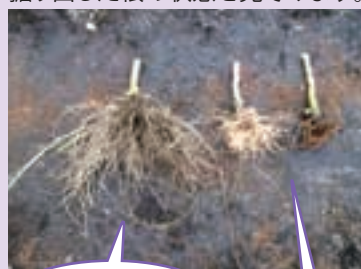
霜が降りて樹の先端が枯れるまでは栽培が出来ます。樹の状態や果実の付き具合などを見ながら収穫終了の時期を判断して下さい。

10月中・下旬に収穫が終了したら、来季の栽培に向けて圃場の準備を進めます。栽培終了後は出来るだけ早く、気温が暖かいうちに圃場を整備することが大事です。

★重要ポイント

樹から落ちた枯葉、根などは土壌病害菌が住み着いていることがあります。出来るだけ圃場外に搬出し、廃棄するといいでしょう。

掘り出した根の状態を見てください。



健全に发育した根
(根がびっしり)

病気等により
ほとんど发育していない根



根を掘る道具です。「てこ」の要領で簡単に根を掘り出せます。根は全てきれいに掘り起こし、圃場外で焼却することがBEST!



根を掘り出した後、トラクターで耕起。土壌病害菌の出た圃場は器具を使い土壌消毒するのも対処の1つの方法です(詳しくはJAにご相談ください)。